

第5回守山市総合計画審議会 議事録

開催日時：令和7年8月5日(火)午後5時30分～午後7時15分

開催場所：守山市役所2階防災会議室

出席者：

(委員) 辻田素子、中川郁男、大崎裕士、山本なお栄、石上僚、岩崎優希、北村妙子、高津真一、小森慎也、佐子友彦、根木山恒平、村田和哉、桃谷香葉、山崎いずみ、杉岡秀紀（オンライン）

(守山市等) 森中市長、福井副市長

総合政策部 長谷川部長、稲田次長、森口次長

総合政策部企画政策課 伴課長、田中参事、大寄係長、堀井主任、北条主事

株式会社地域未来研究所 田渕技術顧問、貞松主任研究員

傍聴 1名

1 開会

2 市長挨拶

3 会長挨拶

4. 議題

(1) 守山市長期ビジョン2035（案）について

会長	議題1 守山市長期ビジョン2035（案）について、ご意見等がありましたら願います。
石上委員	策定の趣旨のところですが、ウェルビーイングという視点に「着眼する」と記載されていますが、「着目する」の方が正しい表現ではないでしょうか。
事務局	ご指摘を踏まえて検討させていただきます。
山本委員	「21 災害に強く、安全で住みよいまちづくり」に関して、能登半島地震発生時にスマホなどで使える電子回覧版アプリで住民の安否確認ができたと聞いています。守山市でもDXを進められているので、防災分野のDXについて、もう少し具体的なことを入れていただけるとありがたいと思います。 また、「05 生涯学習環境の充実」のところ、青少年赤十字について記載されていますが、地域において、赤十字活動をしている人は、自治会の中でも少なくなっている状況ですので、もっと啓発に力を入れる必要があると考えています。最後に、ウェルビーイングに加えて、福祉分野で謳われているウェルフェアについてもどこかに記載する方がいいのではないかと思います。

大崎委員	分野別計画が長期ビジョンと紐づけられているという構成となっていますので、個別の具体的な取組は、各個別計画で今後、反映されていくということだと理解しています。
事務局	ご指摘いただいた点については、担当課に伝え、個別計画の中で検討させていただきたいと思います。
市長	長期ビジョンはあくまでも分野別政策の方向性を示すものですので、防災や福祉の分野でもDXを進めるという大きな方向性は記載させていただき、防災アプリの活用など具体的な取組は、個別計画の方で検討させていただきます。 青少年赤十字については、その精神によりまちづくりを推進することを記載していますので、赤十字の活動に向けた人材確保に関するものをここに記載することは、適さないと考えます。 また、ウェルフェアについては、ウェルビーイングの中の要素の1つでありますので、そこは考え方を整理させていただきたいと思います。
大崎委員	最後の、「6. 地方創生プランについて」のところで、余白部分に各行政分野別の計画一覧を記載してはどうかと思います。 それにより、各分野の担当課が個別計画を立案する際に、長期ビジョンを踏まえて考えていくきっかけになると思いますので、是非記載を検討いただきたいと思います。
会長	ご意見については、どんな個別計画があり、それぞれの計画がいかに関連するのかという話と、実際に計画を実施するにあたってのチェック機能の話もされたかと思います。
大崎委員	個別計画については、長期ビジョンと計画期間にずれがあり、長期ビジョンにあわせて修正が必要な場合もありますので、個別の部分については、長期ビジョンに照らし合わせながら適宜実施していきますという記載があった方がいいのではと思います。
会長	補足説明ありがとうございます。事務局で検討いただければと思います。
杉岡委員	守山市には「市民参加と協働のまちづくり条例」があり、第10条で政策や施策を実施する際には市民参画の手続きを踏むこととなっています。 本ビジョンにおいても、条例に基づいて広く市民の意見を聞いて策定したということをきちんと明記した方がよいと思います。 分野別の政策については、「Ⅰ. つながり」から始まっており、守山市はつながりを重視しているということがわかってよいと思いますが、「02 多文化共生のまちづくり」と「03 市民の多彩な活動の環境づくり、市民参加と協働のまちづくり」は順番が逆の方が、流れとしてわかりやすいのではと思います。 最後に、「Ⅷ. 行財政運営」のところですが、「26 効果的・効率的な行財政運営」は市内部の話が中心であるので、ここに人口の話が出てくることにやや違和感があります。 一方、足りない部分として、働き方改革については、守山市はトップランナーで

	す。他の自治体ができていることを次々と実現していますので、他の自治体を牽引する意味も込めて、人材育成も含めて守山市らしさを盛り込んだ方がいいのではと思います。
事務局	ワークショップを全4回実施し、延べ100人以上の方に参加いただき、とりまとめてきましたので、条例に基づいて意見を聴きながら取り組んだことを記載させていただきます。 分野別政策の順番の入れ替えや、人材育成も含めた働き方改革についての追記、反映についても検討したいと思います。
桃谷委員	「06 安心して子どもを生み育てやすい環境づくり」のところで、「子どもが安心して過ごせる多様な居場所づくり」については、子どもだけでなく、親子が安心して過ごせる居場所という視点もあればよいと思います。
市長	子どもが小さいときは親と一緒に過ごすことが多いですが、一方で中高生など様々な年代の子どもがおり、多様な居場所づくりが重要だと思いますので、2本立てで記載する方向で書きぶりを検討していきたいと思います。
大崎委員	分野別政策の内容については、箇条書きにしているので、「また」や「さらに」がない方がいいと思いますので、再検討していただければと思います。
佐子委員	「27 DXの推進」については、今後10年の計画ですので、もう少しボリュームがあってもいいのではないかと思います。 、医療や保育、交通インフラなどの政策などにもAIを積極的に活用するといったことも含めてはどうかと思います。
事務局	業務でも活用していますので、そういった視点も盛り込めればと思います。
佐子委員	関連して、「すべての手続きがスマホで完結」とありますが、ウェアラブル端末やVRなども普及しつつありますので、スマホだけでなく多様なデジタルデバイスにも対応していく視点も記載してはどうでしょうか。
市長	今後5年、10年で、デジタルデバイスなどをみんなが使う時代が来るかもしれません。ただ、「すべての手続きがスマホで完結」は市として使用している言葉なのでこのまま使わせていただくとして、スマホで使えるものをウェアラブル端末などでも使えるようにしっかりと対応していくことを盛り込んでいくように検討します。
山崎委員	「16 地域の特色を活かした魅力ある農水産業の振興」のところですが、ここ2年の暑さが異常で、気候変動で農業も厳しくなっています。 滋賀県においても暑さに強い品種の米などの農作物を栽培していますが、収穫量が減っており、個人の農家ではどうにもできない状態になってきていますので、農業者と一緒にアクションをしていただくなど検討いただければと思います。
岩崎委員	温暖化の深刻化で、水やりなど想定外の対応に追われ、人手がかかっています。地産地消で市の人々の生活を支える農業ですので、やはり市として一緒に考えていただけるとありがたいと思います。
山崎委員	農業など市の食を支える人たちのことも市と一緒に考えていく必要があると思い

	ます。
市長	ここ数年、酷暑など気候変動の影響が大きく、農業については特に影響が大きいです。現状で市として、そこに手立てがあるかという点と悩ましい問題です。しかしながら、10年間の計画ですので、何らかの対応策を検討していかなければなりませんので、農政課と相談しながら何らかの記載を検討します。
大崎委員	「21 災害に強く、安全で住みよいまちづくり」に気候変動への対策の記載があるので、ここに農業についても追記してはどうかと思います。
村田委員	「04 未来を担う人づくり」についてですが、子どもたちに夢や目標を持つように指導している先生が自分の夢を持てない状況にあります。教育の根幹を担うのは先生ですので、先生の可能性を伸ばし、先生が主体的になり、先生の想いも叶うといったことが記載されているとよいと思います。
市長	子どもの可能性と同時に先生のことについても、教育委員会と相談しながら記載を検討したいと思います。
高津委員	概要版では、人口目標があり、その後にまちづくりの目標が出てきますが、人口は目標ではなく、まちづくりなどの定性的な目標に取り組んだ結果だと思うので、概要版の記載の順番は逆の方がいいのではと思います。
会長	88,000 人という目標数値が際立ちすぎているというのがあるのかもしれないので、緩やかな人口増加を目指すという表現であればじっくりくるのかもしれない。
市長	そもそも人口目標を定める必要があるのかということもありますが、まちづくりの目標を進めることで、緩やかな人口増を目指すということですので、目標である以上、数字は必要だと考えます。
高津委員	人口目標をKPIとして、施策を進めていくという流れであれば、非常にわかりやすいと思います。
市長	市として、どういうまちづくりを目指すのかという点において、人口は大きな要因であり、本市では人口減少でよいのではなく、緩やかでも人口増加を継続していきたいと考えております。 緩やかな人口増加を継続するために、こういうことを進めていきたいという構成ですので、やはり、人口はここを目指したいというのは書いていきたいと考えております。 施策の結果だということは重々承知していますので、政策や施策の結果としての人口目標があるということについては、補足説明等で記載を検討したいと思います。
桃谷委員	子どもの食は重要であり、給食の内容が気になる親は多いと思います。 例えば、守山市では、滋賀県産小麦のパンを提供するなどに取り組まれていますし、ポストハーベスト問題も気になるので、食の安全や給食のことについても、どこかに記載があるとよいと思います。
市長	食の安全についてはそれぞれ基準がありますが、何が安全かは、人により考え方

	が違うところもありますので、具体的に記載することは難しいです。 給食については、守山産の米や滋賀県産小麦のパンなどに取り組んでいるので、地産地消については、農業のところに記載がありますが、改めて皆さんに知ってもらおうという意味も込めて、「Ⅱ.教育・学習・子育て」のところでの記載を検討したいと思います。
山本委員	「03 市民の多彩な活動の環境づくり、市民参加と協働のまちづくり」のところで、市内活動の担い手不足を受け、自治会等のコミュニティ活動の支援の充実を図ると書かれていますが、何を充実するのかは個別計画に記載するということになるのでしょうか。
市長	具体的な取組は個別計画の方で議論していくことになります。 今年度も予算の中で、自治会支援の拡充を大きなテーマにしています。 具体的には、まちづくり等に貢献する取組を行う団体の活動を応援するため、施設使用料の一部を減免する制度などを設けております。 予算措置を通じて、具体化していくこととしています。
北村委員	魅力ある学校づくりのひとつとして、ご指摘のように、先生がいきいきとすることで、子どもたちが主体的に挑戦できるような関係が作れるのではないかと思います。 不登校対策についても盛り込んでいただきましたが、見守り、支えられる環境づくりという点においては、教員も孤立させないという意味で、教員同士の見守りや支え合いがあると、それが子どもの安心につながるのではと思います。
小森委員	長期ビジョンとして、よくできていると思いました。
会長	よろしいでしょうか。議題1については、貴重な意見をいただいたので、事務局で検討いただくということで、終了させていただきます。

(2) 第3期守山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

会長	議題2 第3期守山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、ご質問、ご意見をお伺いしたいと思います。
大崎委員	総合戦略については、本審議会ではなく、別途、他の委員会で策定されるという認識でいいのでしょうか。
事務局	既存の有識者会議で意見を聞いて策定していくこととしています。
大崎委員	長期ビジョンは、意見を積み重ねて策定しているので、総合戦略について審議する有識者会議の冒頭にビジョンの概略版でいいので説明していただきたいと思います。
会長	スケジュールをみると、策定期間が2か月ずれるだけのように見えますので、長期ビジョンを12月に策定する理由を説明いただきたい。
事務局	来年度の予算編成が11月から始まるため、長期ビジョンについては12月に策定し、予算の検討に反映したいということです。
杉岡委員	国の資料の地方創生2.0について、国からの目線だけではなく、地域の生活者と

	しての目線を大事にしていかなければならないと思います。 また、地方創生 2.0 は石破総理が主導する政策ですので、政権の状況によりその内容が変わる可能性もあります。 そのため、長期ビジョンと総合戦略を切り離し、長期ビジョンは市として別立てでしっかり策定するというのが良いと思いました。
会長	よろしいでしょうか。議題 2 については以上とさせていただきます。 それでは以上で本日の議事はすべて終了となります。議事の円滑な進行にご協力いただき誠にありがとうございました。

7. その他

- ・次回は 11 月 14 日（金）に開催。

8. 閉会